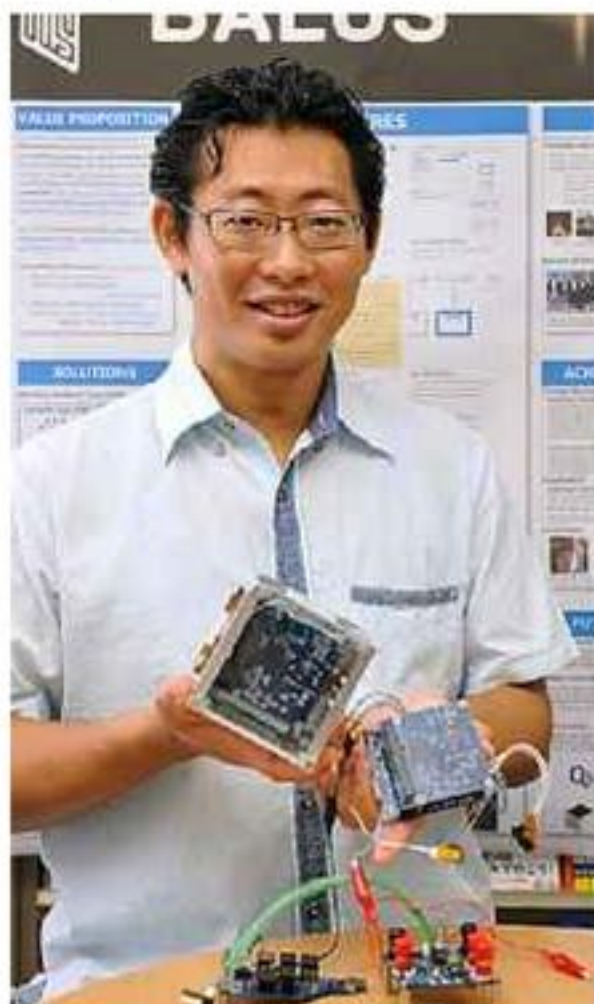




大阪府立大助教

南部 陽介さん(33)

宇宙開発 安く早く小型衛星で



神奈川県葉山町出身。早稲田大学理工学部を卒業後、東京大学大学院、宇宙航空研究開発機構（JAXA）宇宙科学研究所をへて、2010年から現職。

人工衛星に必要な機能がそろった製作キットを、兵庫県の電子機器メーカーと共同で開発した。データ処理の基板や通信装置、電源などがセットになっていて、組み立てると1辺10センチの立方体の超小型衛星ができる。価格は

数百万円の予定で、3分の1ほどの空きスペースに自由に研究機材が載せられる。「教育に利用したい」と、工業高校などから声が届いている。2年前に種子島宇宙センター（鹿児島）から打ち上げた同じサイズの人

工衛星「OPUSAT」をベースにした。大阪府立大学の学生らとともに、ノウハウがないところから3年がかりで製作し、宇宙で蓄電池や姿勢制御にかかわる実験に使った。

中学時代、SFドラマ「スタートレック」に夢中になった。光より速く航行する宇宙船の開発を夢見て、苦手の数学を勉強し、大学へ。アメリカの学会に参加した大学院時代、安く早く作れる超小型衛星が続々と生まれているのを目の当たりにした。日本は数億円の規模の大型に投資が集中し、技術革新の速度が遅い。「技術が立ち遅れてしまう」と危機感を抱いた。

最近設立した衛星の設計を後押しする会社の目的に「超光速移動技術の研究開発」と決意を示した。「宇宙の始まりのなぞを解明したい」

文・佐藤建仁 写真・滝沢美穂子

記者から

軽やかなフットワークと夢でつながるネットワークで、宇宙開発を先導していくに違いない。